

第六分科会第5回会合発言メモ

東京大学 鈴木篤之

1. プルトニウム利用政策に対する国際的な理解の増進

(1) 必要性

- ・エネルギーセキュリティ（世界一の資源小国、世界一の中東依存度）
- ・資源リサイクル（リサイクル技術・リサイクル社会の形成）

(2) 安全性

- ・事故時の安全性（落下・火災・沈没事故）
- ・MOX とウラン燃料のちがい（軽水炉利用の実績）

(3) 透明性

- ・経済合理性（天然ウラン→濃縮ウラン燃料と MOX 燃料の比較）
- ・在庫・利用計画（国内・英仏）

2. 使用済み燃料再処理・管理を巡る対応

(1) 柔軟性

- ・中間貯蔵（サイト内・サイト外・県内・県外／ポートフォリオ）
- ・国際動向（米国の MRS、ドイツのゴアレーベン）

(2) 経済性

- ・原子力発電規模（50基・3,500億kW時）
- ・六ヶ所再処理工場（800ton/yr・45GWd/t 3,000億kW時）

(3) 核不拡散

- ・北朝鮮（使用済み燃料管理・IAEA 査察・KEDO）
- ・使用済み燃料基準（解体核のプルトニウム管理・国際管理）

3. 国際輸送の円滑な実施

(1) 国際協力・協調

- ・ルート関係国（対話・信頼醸成）
- ・英仏（対米・外交交渉）

(2) グローバルな課題

- ・核軍縮促進（米ロ間・カナダ）
- ・研究炉燃料（米国・オーストラリア）